

# 田辺市での道路の維持管理について

## ～広大な市域の道路管理～

和歌山県田辺市建設部土木課

### はじめに

紀伊半島の南西側、和歌山県の南部に位置する田辺市は、平成 17 年に 5 市町村が合併し、面積 1,026km<sup>2</sup> と和歌山県全域の約 22% を占める近畿で最も広い市域を有する市です。

人口は約 7 万 8 千人で、地形は、西よりの海岸部に都市的地域を形成するほかは、森林が大半を占める中山間地域が広がり、水系としてはひだかがわ日高川水系、あいづがわ会津川水系、とんだがわ富田川水系、ひきがわ日置川水系、くまのがわ熊野川水系の 5 水系を抱える地方都市です。

市域には、美しい海・山・川の大自然をはじめ、「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された「熊野古道」や「熊野本宮大社」に代表される古い歴史や文化、日本三美人の湯として知られる「龍神温泉」や日本最古の湯といわれる「湯の峰温泉」などの温泉郷、温暖な気候と風土の恵まれた特産物など、人々の心と身体を癒す豊かな自然環境や、多彩で魅力的な地域資源を数多く有し、古から、豊かな自然との共生のなかで、地域の文化や伝統などを育んできた地でもあります。



熊野本宮大社



百間ぐら (熊野古道)

### 市内の道路状況

(平成 27 年 3 月末現在)

	国 道 (国土交通省所管)	国 道 (和歌山県所管)	県 道	市 道
路線数	1	5	26	2,978
実延長	14,003m	204,307m	246,045m	1,368,672m
規格改良済延長	14,003m	154,414m	146,615m	569,127m
未改良延長	0m	49,893m	99,430m	812,753m
改良率	100%	75.6%	59.6%	41.6%

## 市道の管理体制

市町村合併により、広大な市域となった本市の市道は、路線数2,978路線、延長1,368kmとなり、管理区域が非常に広範囲となりました。

範囲が広いため、市道管理については、一括した管理が難しいことから、旧市町村単位で、それぞれで担当することとしています。

特に、旧町村単位に置かれている行政局管内は、各行政局とも多くが山間部であります。これらの地域を効率よく維持管理するため、各行政局に道路整備員を置き、日常の道路パトロールを行うとともに、草刈りや道路清掃など重機等の機材を要しない作業を行っています。また山間部では冬期になると、路面凍結が頻繁に起こることから、冬場の早朝は凍結防止剤の散布が忙しくなります。

そうした中でも、行政職員だけでは隅々まで把握することは難しいことから、地域住民の皆様からの連絡などもいただきながら修繕対応等に取り組んでいます。

地域住民にとって、市道が大変重要で最も身近なインフラでありますので、今後とも、スピーディーできめ細かい道路管理に努め、事故の未然防止に努めていきたいと考えています。



5市町村の合併により広大な市域となった田辺市。旧町村には行政局を設置し、身近な行政に取り組んでいます。



道路整備員による道路維持作業の様子

## 道路構造物の定期点検

平成25年6月の道路法の改正により、昨年7月から、道路構造物の定期点検が義務化となりましたが、本市には、定期点検対象となるトンネルが14箇所、橋梁が1,004箇所、ロックシェッドが1箇所あります。

市では平成26年度から、国が定める要領に基づき、「緊急輸送道路を構成する橋」、「緊急輸送道路や線路、高速道路や鉄道を跨ぐ橋」から優先的に点検し、橋長14.5m以上の重要橋梁といった順に定期点検を計画し実施しています。

今後、対象構造物の現状把握を行い、地域の交通体系なども考慮した上で、対応が必要な構造物に対



昭和20年に建設され築70年の逢坂隧道。昨年の定期点検で、トンネルが閉塞される恐れのあることが判明し、判定Ⅳの結果に伴い、現在通行止めを行っている。

しては補修や、場合によっては廃道も選択肢の一つとして、安全かつ利便性を考慮した計画の策定が課題と考えています。

また、重大な事故の未然防止のために必要な定期点検事業ではありますが、対象となる橋とトンネル数が非常に多いことから、今後進めていく点検やそれに伴う修繕に対応するには、市の財政的な負担は非常に厳しいものになっていくと考えられます。



一級河川熊野川に架かる市内最長の市道橋「下向橋」(橋長 305 m。本宮地区)

## おわりに

高度経済成長期に建設された多くの道路構造物の高齢化が進んでいくと同時に、山間部では特に急速な過疎化が進んでいます。

こうした中、これからの道路構造物の維持管理は、既得権益にとらわれるのではなく、現状維持を保つことの費用対効果や必要性を念頭に、適切な維持管理に努めていくことが必要です。

また、地域住民からの要望として、新たな道路整備など、利便性向上を求める声が多くある中で、新規改良事業の必要性も十分な精査が必要と考えられます。

さらには、人口減少に伴う財源の縮減が予想される中、今までできていた維持管理ができなくなることも考えられるため、より一層、地域との連携を図り、知恵を出し合いながら、取り組んでいくことが重要であります。

このように、既存施設の維持管理が建設事業に占める比重が一層膨らんでいくなかで、市の総合計画にうたわれている「快適な環境のまち」を目指し、バランスのとれた道路関連施策の展開が大切になっていくものと考えています。



山間部では、つり橋も数多くある(龍神地区)